佐 久 田 間 票 朗 君 君 作 作 歌 Ш

嗚呼季節の芳香満つこの北の大地にぁぁとき かおりみ 移り行く天水渡る朔風厳冬の記憶を留めずっ。 ゅうみずりた かぜふゅ おもい とど 斗遙か たなる夢を得て希望かなえん 緑萌す曠野には若き生命の息吹ありいょくきざっこうやしかかいのちいいなき に広がれる波濤 く水平いへい ħ

嗚呼季節(北斗清かに見はるかす紺碧に滲む大空にほくときゃ 風そよぐ窓下には緑滴る原始林のよう く光彩燦爛と短い の恵み満つこの北の大地に き盛夏を彩 りて

き情熱もて真理求めん

北斗豊か 新たら 充足誘う黄昏に遠く彼方を見渡せばじゅうそくぎそ たそがれ とお かなた みわた 嗚呼季節の実り満 牧場を疾走る若駒の荒土蹴散らすその雄姿**** ほうとけち しき力得て正義質 :に色づける黄金色 つこの北の大地に かん の大沃野

北^ほく 斗と 果は 四 嗚呼季節 物皆埋み凍てつかせ我らが前途閉ざせども

ѕみならず

ぃ ひたすら拓くその迪に放歌笑 声絶ゆるなし しき意識もて自治を築かん Ť なく包み込む の憂愁満 一つこの北 .む荒び飛び散る猛吹雪 の大地に